

## 大学の世界展開力強化事業（平成28年度採択）事後評価結果

大学名	東京芸術大学
整理番号	A②-4
事業名	国際アニメーションコース創設に向けた日中韓 Co-work カリキュラム

### ◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価  <b>S</b>	事業計画を上回る成果をあげており、事業目的は十分に実現された。
コメント 本事業は、新時代のアニメ・映画監督を育成することを目的に、国際的にも同分野で評価の高い日本・中国・韓国の国立大学が、国際共同制作を基盤とした共同カリキュラムを構築するものである。 事業展開では、「国際共同演習（通称：Co-Work）」を主なプログラムとして単位化し、3ヶ国の学生の混成チームが一堂に会し、アニメーション制作を行うという特徴的な取組が実施され、5年間で103名の学生が参加、25本の短編アニメーション作品が制作されていることは高く評価できる。国際共同演習は毎年テーマを変えて、「共同企画ステージ」と「共同制作ステージ」の二部構成となっており、ゼロから完成までを対面とCOIL型教育の知見を取り入れたオンラインを駆使して実施し、完成した作品は産業界も巻き込んで開催される完成上映会で公開される。これらの取組は芸術教育のモデルプログラムとして成熟したものとなっていると評価できる。また、3ヶ国に共通する文化・思想背景をテーマとした上で共同制作に関わることで、日中韓の文化の差異と共通性への深い理解へとつながっていることや、PDCAサイクルに基づいた継続的改善、外部評価が実施されていることから、プログラムが適切に実施されていると高く評価できる。更に、交流人数は派遣・受入ともに、目標を大きく上回っており、授業後の学生アンケートの結果からも、養成しようとする人材育成の目標に達していると判断できるとともに、「国際コミュニケーション演習」として単位化し取り組んだ結果、外国語力基準の目標も達成できていることは評価できる。今後の展開としては、韓国芸術総合大学との間で締結されたダブルディグリーに続いて、3大学共同で「国際アニメーションコース」を設置する方向で事業が着実に推進しており、ASEAN諸国の芸術大学を巻き込んだ取組も既に実施されていることから、今後の事業展開が多いに期待できる。 一方で、学生の外国語力基準は目標を達成できているものの、国際的に活躍する人材を育成するという点からは、更に高い基準を目指す教育内容の構築が求められる。また、デザイン思考やSTEAM教育のモデル構築に向けてより一層深い分析を行うとともに、汎用性のあるツールやデザインを取り入れ、構築した教育モデルを今後芸術系を超えた分野に波及させることを期待したい。 最後に、大学の世界展開力強化事業による補助期間は終了したが、引き続き質保証を伴う発展的な事業展開の実施によって、我が国の大学教育を牽引し、更なるグローバル展開力の強化に寄与されることに期待する。	